

に寄与したと評価しているが、例えば「予報技術月例会」といったものも開催してみてもどうだろう。アメリカ気象学会では Broadcast Meteorology のシンポジウムが定期的に開かれているが、この種の問題も「予報技術月例会」でまず議論してみるのが適切かも知れない。

〈沼口 敦評議員〉

若手研究者の立場から、二点ばかり意見を述べたい。一つめは、積極的に学問間・機関間の研究協力の促進の努力をお願いをするということである。現在、地球環境の総合的な研究の必要性が叫ばれているが、それには細分化された学会間や観測研究機関間の協力が必要となる。その中で気象学会は比較的よくまとまっている学会であると思われ、学際協力において中心的な役割を担うことが期待される。「天気」などで周辺学問分野・学会や各研究機関での話題の紹介に努めていただくとともに、関連学会との共催行事などの開催にもより多くの努力をお願いしたい。また、各機関間のデータなどの自由な流通について便宜を仲介する機関として、気象学会に活躍していただきたいと思う。

学際協力を実質的に進めて行くためには、特に若手の研究者レベルでの研究交流の活発化が重要であろう。そ

こで二つめに述べたいことは、近年活発化してきている若手研究者の自主的活動に対する理解と支援をお願いしたいということである。昨年には、第一回「夏の学校」の開催、名簿の発行、品切本の復刊運動などが行われた。また、各地で若手を中心とした研究会が定例的に開催され、異なる大学・分野の研究者の交流の場として成果を挙げている。しかし、現状では、情報の不足、財政的困難などの問題があり、さらなる活発化の障害となっている。そこで、このような活動に対して学会にご理解いただき、さまざまな形で支援をお願いすることにより、より実のある研究交流活動が促進されることを望みたい。

最後に私のような若輩が意見を述べる機会を与えてくださった理事の方々に感謝するとともに、今後もより広く若手の意見を汲み入れる窓口をひらいていただくことをお願いしたい。

5. おわりに

以上のご意見・ご提言を踏まえて、学会活動を発展させるよう理事会として努力していきます。

スーパーコンピュータCPU提供のお知らせ

(財)科学教育研究会の「スーパーコンピュータと社会」研究委員会から気象学会へ、本年も CPU 提供の申し出がありました。環境問題の研究を発展させるため、特に、スーパーコンピュータを大量に必要とする分野の一つとして気象学が選ばれました。以下の案内をご覧のうえ、希望者は応募要領に従って、1991年9月10日までに学会事務局宛て申し込んで下さい。

提供内容：使用計算機 NEC/SX-2A

CPU 200時間

使用期間 1991年10月—1992年9月

条件：

- (1) 応募者(代表者)は日本気象学会員であること。
- (2) スーパーコンピュータで初めて実現する研究テーマであること。効率的に計算時間を活用するため、

採用は原則として2件以下とし、選考は気象学会理事長が任命する選考委員会が行なう。

- (3) 東京都中央区勝どきにあるスーパーコンピュータ研究所(ISR)に設置の端末から使用する。
- (4) 研究成果は研究者本人に帰属する。ただし、研究終了後、上記研究委員会主催のセミナーで報告を行うと共に、ISRのニューズレターにレポートを提出する。

応募要領：

A4版用紙にワープロで、①研究者氏名・所属(複数の時は代表者を筆頭に連記)、②連絡先(住所、電話、FAX等)、③研究テーマの概要、④計算内容の説明(スーパーコンピュータ利用の理由等)、を明記すること。